

主 務	主 幹	統括主幹	課 長	部 長	教育長

◇吉田 浩 議員

1 岡谷市における新型コロナウイルス感染症対策について

(2) 行事やイベント開催における感染防止対策 2回目

来月予定されている、成人式における感染防止対策はどのようにされるのか伺います。

○教育部長答弁

岡谷市では、来年1月10日（日）にカノラホールを会場に、「令和3年岡谷市成人式」を開催する予定で準備を進めています。対象者は、平成12年4月2日から平成13年4月1日までにお生まれになった方で、男性が299人で、女性が270人の、合計569人です。

先の見えないコロナ禍において、安全・安心な成人式を開催するにあたり、様々な感染防止対策を検討しているところであります。まず、受付時には、サーモグラフィカメラによる検温やマスク着用の確認と手指消毒、さらには2週間前からの健康確認を徹底して実施していきたいと考えています。また、3つの密を避けるために、受付時間の短縮や入場口を分散し、動線の確保を行い、会場内に速やかに入場していただく予定です。式典におきましては、来賓の人数削減や、カノラホールの収容人数を有効に活用し、座席の間隔を空けて着席いただくなど、3つの密を避けるともに、国歌・市歌をCD演奏に代えるなど感染防止対策を徹底してまいります。

その後の記念写真の撮影につきましては、区ごとの撮影から、出身小学校区ごとの撮影に変更して、撮影時間及び待機時間の短縮を図るとともに、撮影時以外は、マスク着用を徹底するなど、万全な対策をしていきたいと考えております。

成人式は、人生の節目を祝う大事な式であります。県外から多くの新成人が集う場となりますので、社会的な影響が大きい行事でもあります。

コロナ禍ではありますが、心のこもったあたたかい式となるよう、参加者及び関係者の皆様の安全・安心を最優先に、できる限りの対策を行ってまいりたいと考えています。

なお、今後の状況によっては、大幅な変更を余儀なくされる場合も考えられます。全国的な感染状況や、長野県内また、近隣市町村の状況を踏まえ、総合的に判断してまいりたいと考えております。

○吉田 浩 議員3回目

現時点における参加申込人数を教えてください。また、参加者記念品について、どのように考えているかお伺いします。

○教育部長答弁

本日時点で、569名中394名から参加のお申込みをいただいております。7割に達する方から参加の申込をいただいております。例年並みの人数となっております。記念品については、当日お渡しする予定でございますが、状況によって検討してまいりたいと考えております。

○吉田 浩 議員 4回目

新型コロナウイルス感染症を理由に、参加をあきらめている新成人もいるかもしれない。そのような人への対応を考えているか伺います。

○教育部長答弁

新型コロナウイルス感染症だけでなく、学校の試験や、勤務先の都合等、様々な理由で成人式への参加が難しいと考えている方がおられますので、現在「写真による参加」を募集しています。

ご自身の写った写真に、大人の仲間入りにあたっての思いや、将来の夢などを一言添えた画像をEメールで送付いただき、パンフレット等へ掲載してまいりたいと考えています。

コロナ禍の初めての成人式にあたり、新たな試みではありますが、できる工夫をしっかりと行い、教育委員会が一丸となって、心のこもった成人式を開催してまいりたいと考えております。

○吉田 浩 議員 5回目

前回の成人式に参加して気になったのは、ロビーにおける混雑状況である。久しぶりに懐かしい友だちに会って、話をすることが一番の楽しみだと思うが、あの状況は心配である。対策は考えているか伺います。

○教育部長答弁

入場時につきましては、受付実施後、速やかに入場いただくため、ホールへの入り口を分散して、動線を確保し入場いただくような対策を考えております。

写真撮影後につきましても、出口を分けまして、小学校区ごとに退出を促しまして、ロビーに滞留する状況を作らないよう、撮影が終了した方から、順次ご退出いただくことで、感染リスクの低減に努める予定であります。

また、会場内の混雑を避けるために、職員による誘導を確実に行ってまいりたいと考えています。

○吉田 浩 議員 〈要望〉

入念に対策を講じて開催するべく、工夫をしてくださっていることが分かりました。人生の節目を祝う大切な行事でありますので、是非安全な開催をお願いしたいと考えております。

◇早出 すみ子 議員

2 保育園から小学生までの子どものあそびの環境について

(2) 子どものあそびの変遷

社会の環境変化に伴う子どもたちの遊びは、どのように変遷しているとお聞きします。

○教育部長答弁

子どもたちを取り巻く環境は、目まぐるしく変化しています。子どもを巻き込んだ犯罪の増加に伴い、子どもたちだけで遊ぶ事が、難しくなっているだけでなく、習い事などに通う子どもも多くなり、屋外で友達と待ち合わせて遊ぶ機会も減り、一人の時間をSNSやネットゲームなどで過ごす子どもたちが増えています。

また、子どもの遊びについては、一般的に「三つの間」の欠如が指摘され、幼児や小学生の遊びに不可欠と考えられている、自由な遊び時間、群がって遊ぶ仲間、自由に遊べる空間が、時代の変化とともに確保しにくくなってきています。

このような状況の中で、現代の子どもたちの遊びは、屋外で思い切り走ったり、ボールで遊んだり、遊具に上ったりといった、「体を活発に動かす遊び」をしている子どもの割合が減少し、室内で絵本を読んだり、粘土やブロックで遊んだり、ゲームやスマホをするといった、「体を動かさない遊び」をしている子どもの割合が増えていると言われています。

いずれにしても、様々な「遊び」を通して、たくさんのことを考えたり、様々な体験をしたりすることは、子どもたちの成長にとって不可欠なものであると考えております。

○ 早出 すみ子議員 2回目

外遊びが子どもに与える影響は、どのようなものがあると考えているか、お伺いします。

○教育部長答弁

幼児期から、小学校低学年までの間は、高い運動神経を養う時期にあたり、外遊びを通じ、多様な動きを経験することで、体の筋肉がバランスよく鍛えられると言われています。また、いろいろな事に興味をもつことで、脳の発達を促し、集中力や我慢する力の発達を助け、精神的な成長につながると考えられています。

さらには、様々な年代の多くの友だちと遊ぶことで、ルールやコミュニケーションを覚え、協調性や社会性を自然に身につけることができ、身体だけでなく、心の成長を促す良い影響があるものと考えています。